

報 告

「なくそう原発3.11 府民1万人集会」に参加

◆日時 2012年3月11日(日)12時～16時 ◆場所 大阪 扇町公園

東日本大震災からちょうど1年目となる3月11日(日)、CASAは自然エネルギー市民の会(PARE)と共同で、大阪・扇町公園で開催された「なくそう原発3.11 府民1万人集会」に参加しました。

当日のメインイベントは、脱原発や自然エネルギーの普及を呼びかける1万人パレードでしたが、CASAは、「CASA2020モデル」についてわかりやすく紹介した小冊子「脱原発と地球温暖化対策は両立可能!～2020年25%削減と脱原発シナリオ～」を約3,500部ほど配布し、関連する書籍の販売も行いました。またPARE



会場の北東方向を望む。この付近で「脱原発と地球温暖化対策は両立可能!～2020年25%削減と脱原発シナリオ～」パンフレットを配布。

と共同でブースを出して、自然エネルギーについての展示・実験・工作コーナーの出店なども行いました。実験コーナーでは、ソーラークッカーを使って目玉焼きを作るコーナーに人気が集まり、子供たちよりもむしろ、多くの大人たちが好奇心いっばいに覗き込んでいるのが印象的でした。焼き上がった目玉焼きは、とても美味しいと好評でした。工作コーナーでは、白くまくん帽子に子供たちの人気が集まり、用意した小人サイズの帽子は全て売り切れしました。3歳の小さな子でも、上手に切り取り線からパー



ブースを設営



ソーラークッカーに人気



白くまくん帽子の工作コーナー

ツを外して見せてくれるなど、小さな子供の器用なことに大人の私たちが感動する場面もありました。



南方から会場中央を望む



西方から会場中央を望む

会場中央では、ゴスペルやコーラスに乗せて日本の未来を変えようとする歌声が響き、福島県から招かれた震災被害者の訴えもなされていきました。色とりどりの風船や旗などを手にした多くの参加者が、脱原発の思いで心をひとつにできた集会でした。

CASAやPAREの他にも多くの団体やグループがテントを出しており、脱原発や自然エネルギーの普及に取り組む多くの仲間たちがいることを知り、励まされるとともに、力強さを感じました。主催者の発表では、当日は8千人にのぼる参加者があったということです。震災が発生した14時46分には、参加者全員で1分間の黙とうを行いました。その後、メッセージを書いたパネルや風船を手手に、ゴールの中崎



パレード出発



パネルを掲げて

町に向けての長い列のパレードが出発しました。CASAとPAREから参加した私たちも、白くまくん帽子を被って「人間に制御できない原発はいらない」「No More Nuclear Power. Welcome Solar and Wind Energy!」と書いたパネルを掲げてパレードに参加しました。沿道の人々から大きな注目を浴び、新聞社のカメラなどを向けられインタビューを受けたメンバーもいました。

私たちは、皮肉にも東日本大震災の発生という大きな痛みを通して、エネルギーについて日本が抱える巨大な問題点に直面させられることになりました。しかし、それを憂うだけではなく、より良く変えて行こうという人々の熱気と行動を目の当たりにして、確実に日本の社会が変わろうとしていることを実感できた1日でした。

(報告：古家明子、CASA ボランティア)